

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

1972年6月14日にアイルランドのウエックスフォード郡に生まれたフォーチュンは、ジム・ボルジャー厩舎で見習い期間を過ごし、87年にデビュー。間もなく拠点を英国に移し、90年には47勝をマークして若手の有望株と目されるようになった。

更なる飛躍のきっかけとなつたのが、大手馬主ロバート・サンクスターの主戦に指名された98年で、この年の10月、サンクスター氏が所有し、ピーター・チャップルハイアム調教師が管理するコマンダーコリンズでG1レーシングポストトロフィーを制し、G1で重賞初制覇を達成している。更にこの年、フォーチュンは年間勝ち星が初めて100の大台をこえる108まで伸び、トップリーダーの仲間入りを果たしている。

99年にサンクスター氏のお抱え調教師が、ピーター・チャップルハイアムからジョン・ゴスデンに代わり、そこからゴスデンとフォーチュンの蜜月関係がスタート。05年に、ゴスデンが拠点をニューマーケットに移して、パブリックトレーナーとして開業して以降も、ゴスデンはフォーチュンを主戦として起用し、両者の関係は09年ま

マーケットにおける騎乗を最後にムチを置いた、ジミー・フォーチュン騎手(45歳)を取り上げたい。

今月のこのコラムは、10月7日のニュー

マーケットにおける騎乗を最後にムチを置いた、ジミー・フォーチュン騎手(45歳)を取り上げたい。

ヨンSを、ルカーノで07年のG1セントレジャーを、レイヴンズパスで08年のG1クイーンエリザベス2世Sを、レインボウビュード08年のG1ファーリーズマイルを、ヴァーチュアルで09年のG1ロッキンジSを、ダーレミで09年のG1プリティボリースとG1ヨークシャーオークスを制するなど、ゴスデンとフォーチュンのコノビは数々のビッグタイトルを獲得した。

中でも、レイヴンズパスによるG1マイケンエリザベス2世S制覇と、レインボウビュードによるG1ファーリーズマイル制覇は、いずれも08年9月27日にアスコット競馬場で果たしたもので、フォーチュンはこの日を「生涯最高の1日」と称している。

ジミー・フォーチュンを突然の不幸が襲つたのが、14年5月だつた。最愛の妻ジャンが、動脈瘤破裂のため突然死したのであ

る。

この時、長男のジョーが15歳、次男のキランが14歳で、ジミー・フォーチュンは騎手としての責任を全うするかたわら、彼等の父親としての役目がその両肩にずつしりと压し掛かることになった。競馬のシ

で長きにわたって続くことになった。この間、オアシスドリームで02年のG1ミドルパークSを、プレイフルアクトで04年のG1フリーズマイルを、ナニンナで05年のG1フリーズマイルと06年のG1コロネーションSを、ルカーノで07年のG1セントレジャーを、レイヴンズパスで08年のG1クイーンエリザベス2世Sを、レインボウビュード08年のG1ファーリーズマイルを、ヴァーチュアルで09年のG1ロッキンジSを、ダーレミで09年のG1プリティボリースとG1ヨークシャーオークスを制するなど、ゴスデンとフォーチュンのコノビは数々のビッグタイトルを獲得した。

中でも、レイヴンズパスによるG1マイケンエリザベス2世S制覇と、レインボウビュードによるG1ファーリーズマイル制覇は、いずれも08年9月27日にアスコット競馬場で果たしたもので、フォーチュンはこの日を「生涯最高の1日」と称している。

最後の騎乗となつたのが、牝馬による距離1マイルのG1サンチャリットSで、かつての盟友であるジョン・ゴスデンが管理するナスラ(牝4、父オフラーージ)に騎乗したフォーチュンは、オッズ21倍の8番人気だった同馬を3着にもつてくるという、見事な手綱さばきを見せている。

さて、今後のフォーチュンだが、競馬の世界からは身を退き、不動産業を手掛ける予定とのこと。本人によれば、かねてから興味を持っていた分野のようで、行くは、二人の息子とともに会社を経営することが出来たら最高だと、将来へ夢を語っている。